

ホーム・ルームと生徒会との関係強化による

ホーム・ルーム指導の実践的研究

ホーム・ルーム研究委員会

まえがき

ホーム・ルーム、生徒会など特別教育活動の指導は、ややもすれば教科指導の影に押しやられて、陽の当たらぬ場であることが多い。しかし、ホーム・ルームや生徒会が、生徒達の人間形成の上で果すべき役割の大きさを考えると、受験体制の中にあえぐ生徒達のために、ここに光を当てなければならない。

われわれの研究は、その一つの方法の試みであり、ここにまとめたのは、その試みの小さな中間報告である。

I 研究計画の概要

1. 研究テーマ

「ホーム・ルームと生徒会との関係強化によるホーム・ルーム指導の実践的研究」

2. テーマ設定の理由

A 問題の所在

(1) 問題の発見

現在の日本の高校教育の場で生徒たちがとる思考や態度のうちに、放置しがたい人間性のゆがめられた危機的な姿が見られる。それは教育基本法の目ざす「真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民」への成長はおろか、逆に彼らのおかれた状況の認識を避けようとし、受験以外の学習や、ホーム・ルーム（以下H・Rと略記する）、生徒会、クラブ、行事などへの参加には逃避的で無気力になっている。彼らは真実を語れる友を求めつつも現実では互いに不信感と孤立感をつのらせている。そこには「健康な国民」への成長とは逆に「国民の荒廃」への過程を感じさせるものがある。生徒個人の主体性と連帯性の貧弱さ、そして生徒集団の無力さ、これらの危機的状況はなにに起因するのであろうか。

(2) 原因の推測

現在の学校教育は受験体制とよばれる状況におちいつている。それは生徒たちが社会人となったときに予想される生活条件の大きな差別と、それへの不安が結びついて彼らを受験競争にかりたてている。不可避的に迫ってくるこの受験競争への強要こそ、彼らの人間性をゆがめ、教育基本法を阻害する要因ではないだろうか。

(3) 解決の見通し

危機的状況が教育の内外に起因するものとすれば、教師の側からの指導のみによっては十分に解決しえない問題かもしれない。したがって、それは単に教育の問題という領域に限定されるものではなく、社会問題の一表現形態と考えなければならぬ。しかし、われわれは学校教育の中でなしうる可能性を追求しなければならない。したがって、われわれは生徒の「主体性」と「連帯性」とをその「思考と態度」とにおいて深めるための指導方法を追求していこうと考えた。

(4) 生徒実態調査

以上のような問題状況とその原因に対する予想が、本校において現実にとどの程度の確かさをもっているかを検討するために、次のような調査を行なった。

a 調査の時期および対象

3月8日 高一・高二全員

b 問題用紙

予備調査

この調査は、諸君の学校生活、特にホーム・ルーム（以下H・Rとする）活動や生徒会活動などをよくするための基礎資料を得るのを目的として行なうものです。諸君が日頃考えていること、行動していることをできるだけ反映させて下さい。

回答の方法は、指示に従って、所定の欄に○または×印をつけて下さい。また記名方式ですが、組番号は4カ所に記入して下さい。

I 現在、あなたの日常的な行動や考えをもっとも大きく左右しているものは、次のうちどれですか。一番大きいものには◎を二番目のものには○をつけなさい。

1. 家族 2. 友人 3. 恋愛 4. 性格 5. 成績 6. 受験（進学） 7. 将来の不安

8. 政治問題 9. 平和の問題

II 10~16のような生活態度がありますが、あなたの生活態度に近いものには○を、反対のものには×をつけなさい。

10. 人生はその時、その時が楽しければよいと思う。
11. 今の世の中では、大きな夢や希望や理想よりも、ささやかな幸福を求めた方がよい。
12. 友情や愛情について深刻に考え悩むのは無意味だと思う。
13. 本当に信ずることのできるのは、その場その場の自分の実感だけである。
14. すべての人間関係はギブ・アンド・テイクでなければ損だと思う。
15. 芸術にせよ、日常生活にせよ、すべてムードが大切である。
16. あとさきを考えるよりも、ともかく行動してみることだ。

III あなたは次にあげたH. R活動のあり方のうちよいと思うもの二つに○をつけなさい。

17. H. Rは級友と楽しくレクリエーションをする場である。
18. H. Rは事務的な連絡を受ける場である。
19. H. Rは親しい友人を得る場である。
20. H. Rは教師と生徒個人との人間関係の場である。
21. H. Rは日常生活の中の問題や悩みを出しあい相互理解と信頼とを深める場である。
22. H. Rは共通の目的やその実現のための作業に各人が取りくむ場である。

IV あなたはH. R運営(企画, 実行)の中心は、次のどれがよいと思いますか。1つ選んで○をつけなさい。

23. 教師 24. 生徒 25. 教師と生徒

V 24または25に○をつけた人は、その生徒を次のうちのどれと考えましたか。1つ選んで○をつけなさい。

26. 学級代表 27. H. Rの全員 28. H. Rに興味をもつ者

VI あなたはH. Rの時間をどのように過しますか。次のうちもっともあなたのように近いのはどれですか。1つ選んで○をつけなさい。

29. 提案したり意見を述べる。 30. 意見ぐらひは述べる。 31. 質問したいことがあっても黙っている。 32. なんにも考えない。

VII あなたが、そのようにH. Rの時間を過しているのは何故ですか。原因に関係があると考えられる項目を次の中から1つ選んで○をつけなさい。

33. 自分の性格 34. 自分の考え方 35. H. Rの運営のしかた 36. 教師の指導のしかた 37. H. Rでとりあげる話題や活動内容

VIII 現在あなたのH. Rのふんい気は、次の38~41のどれにもっとも近いと思いますか。もっとも近いものに○をつけなさい。

38. お互いに注意しあったり、他人からの注意を素直に受け入れる雰囲気がある。
39. たいがいのことは話し合えるが、人の欠点や失敗には触れない方がよいというような雰囲気がある。
40. あたりさわりのないことしか話し合わない雰囲気である。
41. いつでも相手に受け入れやすいように、心掛けることが大切で、時々心にもにいを言ってしまう雰囲気である。

IX よくH. Rは低調だといわれますが、H. Rが低調になる原因と考えられるものを選んで○をつけなさい。

42. 事務的な連絡が多過ぎる。

43. 教師の説教が多い。
 44. 日常の生活にある問題が討論されない。
 45. 観念的な議論ばかりしている。
 46. 時間が行事などにつぶされる。
 47. 時間が短かすぎる。
 48. 時間が延長されることが多い。
 49. 教師が軽視しているように見える。
 50. 授業の方が大切だから、生徒に熱意がない。
 51. 受験準備で忙しい。
 52. クラブ活動の方がおもしろい。
- X あなたは H. R をもっと活発にしたいと思いますか。次のどちらかに○をつけなさい。
53. 活発にしたいと思います。
 54. 活発にしたいとは思わない。
- XI 53と答えた人はその方法として考えられる次の55～58のうち現状でもっとも適切なものを1つ選んで○をつけなさい。
55. H. R の一人一人が自覚すること。
 56. みんなで、とりくむこと。
 57. 個人の自覚と、みんなでとりくむこと。
 58. 教師の指導性の強化。
- XII 54と答えた人は、その理由として考えられる次の59～62のうち、あなたの考えにもっとも近いものに○を1つつけなさい。
59. 現在の社会のしくみでは、H. R なんか必要でない。
 60. 机を並べていても、結局はみんな競争相手だから
 61. もともと人間は自分1人だから H. R なんてつまらない。
 62. とくに理由なんて考えていない。
- XIII 現在生徒会は低調であるといわれていますが、あなたは、そのようにいわれる原因はどこにあると思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んで○をつけなさい。
63. 生徒個人個人に
 64. H. R 活動に
 65. 生徒会の執行部に
 66. 教師の指導に
- XIV 現在、生徒会活動をさかんにするのに最も大きな障害となっていると思われるものはつぎのどれですか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで○をつけなさい。
67. 生徒個人の無関心。
 68. H. R と生徒会との連絡がまずく、生徒会が、H. R から積極的に問題を吸いあげないから。
 69. 生徒会執行部の不活発。
 70. 教師の指導が強すぎる。
 71. 教師の指導が弱すぎる。
 72. H. R 活動の低調
- XV 年に何回か開かれる生徒総会にたいしてあなたの参加の態度はどうでしたか。もっとも近いものを1つ選んで○をつけなさい。

- 73. 友人に参加を呼びかけ、会場では発言もした。
- 74. 出席し、討論を開いていたが、発言はしなかった。
- 75. 適当な、ヒヤカシ半分で出席した。
- 76. 授業をつぶしてやるから出席するが放課後やるのだったら出席しなかったであろう。
- 77. 総会には出席したが、何をやっているかについては興味はなかった。
- 78. 総会には出席しないで、自分の好きなことをやっていた時もあった。
- 79. いつも授業をつぶしてやるので、授業が遅れるので閉口であった。

XVI 現在駒場の学校生活の中には、自分たちの問題がたくさんあります。例えば、遅刻が非常に多いこと、掃除が不徹底であること、週番がマンネリ化していること、などがそうです。それを生徒会が自分たちの問題としてとりあげようとしたら、あなたはそれをどう思いますか。次のうちから1つ選んで○をつけなさい。

- 80. 賛成 81. 反対 82. よくわからない

XVII 生徒会の活動は、どのようにあるべきだと思いますか、あなたの考えにもっとも近いものに○をつけなさい。

- 83. 対外活動
- 84. 校内の身近な問題
- 85. 予算やクラブ活動の調整
- 86. 校内生活における自主規律（校内における清掃・週番・遅刻などの問題）
- 87. 公報活動
- 88. H. R との連携強化
- 89. クラブとの連携強化
- c 各問の意図 省略
- d 調査結果（付表12参照）

① 問題Iから問題XVIIまでの各問の解答分析(主要なものだけを取り上げ、他は省略する)

イ H. R における＜主体性＞の必要性を生徒が意識としてはどの程度認めているかを問IV「H. R 運営の主体は誰れか」でみると、教師に任せるという者は殆んどなく、一見自治意識の高さを感じさせるが、しかし、問IIIの「共通の課題への取り組み」という本来の＜主体性＞の必要性を認めている者は生徒の2～3割で少ない。なお高二では問Xの「H. R をもっと活発にしたいか」に対し2割もの生徒が否と答えている。次に、H. R への取りくみの現実的な積極性の度合を問VI「H. R をどういう態度で過ごしているか」でみると、積極的に＜提案、意見をのべる＞者は2割に満たず、約半数の者は＜きかれれば意見をのべる＞といった態度をとっており、残りの生徒たちは疑問があっても質問さえしないで、または何も考えずに、ただH. R の早く終了するのを待っているという無気力な状態である。

ロ H. R における＜連帯性＞の必要性を生徒が意識としてはどの程度認めているかを問IVの「相互理解と信頼のある活動を期待するか」でみると約半数の生徒がそれを望んでいることがわかる。ただその中に＜生徒個人と教師の関係を深める場＞や＜友人を得る場＞といった、本来のH. R とはちがう個人主義的な関係の深化のみを考えているものが相当数あることを思慮すると、＜連帯性＞への期待も質的にはかなり低いものと判断しなければならない。また期待の度合が高二では高一より減少していることは深刻である。次に＜連帯性＞の深さの現実的な度合を問VIII「H. R の雰囲気」でみるとH. R における人間関係に大きな信頼感をもっているものと、極端な不信の状態を感じている者

とは、ともに1割強で、多くの生徒は〈相手の欠点には触れず〉〈あたりさわりのないことしか口にしない〉といった信頼感の薄い状態にある。さきに見たように信頼と相互理解への期待が個人主義的な傾向が強いために、比較的多くの生徒が「期待しているにもかかわらず、H. R の連帯性を強める方向には発展していない。なお、ここでも高二になると不信感は深まっている。

- ハ 生徒会活動への生徒の期待を問XVIIで見ると、半数の者は身近な問題を取り上げることが望んでいる。(高二では減少)しかし、実際の生徒総会への参加態度を問XVで見ると身近な問題の討論でさえも積極的な者はきわめて少なく、 $\frac{3}{4}$ の者はただ耳をかたむけているにとどまり、約2割の者はその場に身をおいているだけで心は完全に逃避している。face to faceというH. R 集団とちがって生徒総会では受身の態度、あるいは無関心が支配的となり、生徒の〈主体性〉はさらに貧弱になっている。なお、殆んどどの生徒が生徒会が低調であることを認め、活発化することに賛成しているが、その方法として〈H. R との関係強化〉や〈自主規律〉を考えている者はわずかで、8割の者は個人の自覚に期待している。しかも、さきに述べたように自らその期待を裏切るという認識と行動とのアンバランスが目立つ。

二 受験体制と〈主体性〉〈連帯性〉との関係を見ると、問I「自己の行動を規定する要因」の分析から受験体制(成績、受験、将来への不安)の圧力が学年が上がるほど多くの生徒に意識されるようになり、かつその程度が深刻になっていくという事実に対応して学年の上がるにつれて〈主体性〉〈連帯性〉が意認、期待の面でも実践的な態度の面でも稀薄になっていることが明らかになった。

② 問題I～XVIIの全体の結論

以上の調査分析から、さきに予測した(a)〈主体性〉と〈連帯性〉の稀薄さ、および(b)その要因としての受験体制の重圧が確認できる。さらに追加的に集団の次元(組織的な思考や態度)の低さと、規律意識の稀薄さとを見い出した。

B テーマ設定の理由

〈主体性〉〈連帯性〉の強化という目標を達成していくために「と生徒会との関係強化によるH. R 活動の活発化」という方法を選んだ理由は

- (1) そのような思考や態度形成は、教科の学習活動における指導の場でも考えなければならないが、現実的には、H. R、生徒会、クラブなどの特別教育活動における指導の場の方がより直接的に、効果的な指導が行ないうる。
- (2) 本校は伝統的に自由な雰囲気をもっているが、反面H. Rの活動では経験交流のないバラバラな活動を、しかも成果の積み重ねの殆んどない同一時点からの出発が年々繰り返されてきた。
- (3) H. Rを活発にするためには、経験交流、成果の積み重ね、身近な問題への取り組みを必要とするが、H. Rの要求を組織的にすることなしにそれはなし得ない。の要求を組織的にすることなしにそれはなし得ない。H. Rの要求を実現するためには、個々のH. Rのそれを全校的な規模で統一するような組織、即ち生徒会への結集が必要である。
- (4) また、生徒会活動の活発化はバラバラな個人の関心や参加では保障されずH. R段階での討議で生徒会の問題を全員のものにするところまでいくことを必要とする。
- (5) したがって、われわれH. Rはと生徒会との討議のfeed-backを盛んにするという組織的活動を通してこそ、主体性、連帯性の強化という目標は、もっとも効果的に達成されると考えて、本テーマを設定した。

2. 研究の目標

教育基本法のかかげる教育が、現実の中でゆがめられ、生徒達が非人間的な学校生活を強いられ、教師の側にもそれに対する無気力な姿勢さえ見られるなかで、この低迷を打破していく一つの手がかりとして、特別教育活動の分野における指導のあり方を検討し、効果的な指導法を確立していきたいと考える。

なお、本年度は予備実験的段階として、実践上の問題点の発見につとめたい。

4. 指導目標

A 指導目標

- ① 生徒の主体性の強化
- ② 生徒の連帯性の強化
- ③ 生徒集団の次元の高度化
 - (1) 「集団の目的を実現する力」であるが、こまかく見ると a. 集団構成員の要求をひき出す力およびそれらの要求を結集する力 b. 要求を現実のものにする集団の力
 - (2) 上位集団への志向を高める。例えば、班活動を行う場合、常に H. R の一単位集団としての自覚をもっていくようになること。また H. R が活動するときに生徒会の基礎集団としての意識に支えられた行動をとれるようになることなどである。
- ④ 生徒集団の個の解放と自主規律の育成
 - (1) 集団の中で個性を発揮させること a. 潜在的能力や性格の伸長、発揮 b. 各個人の欲求の充足の保証（欲求の充足とは、個人が期待し、集団が容認する個別的欲求をみたすこと）などをさして、個の解放とする。
 - (2) 集団の目的および個の解放のためにつくられた規律を守らせること。
H. R と生徒会との関係強化を通じて①～②の目標の達成を目指す。

B 第一年度の具体的目標

- (1) 校外指導の準備と実施を通して H. R の基礎的な〈組織づくり〉を行ない、〈討議づくり〉に着手する。
- (2) 校外指導後は日常的活動や学校行事への取り組みの中で〈討議づくり〉〈核づくり〉を推進する。

5. 第一年度の指導の場と方法

A 高校一年生

指導目標の達成を

- (1) 校外活動における生徒の自主的な準備活動と実施活動を促進する形で行なう。
- (2) 校外活動以後は、日常の H. R 活動を班活動という形態を通じて行なう。
- (3) 生徒の自主的な文化祭等学校行事への取り組みを通じて行なう。

B 生徒会

指導目標の達成を生徒の中に芽ばえつつある「H. R と生徒会との関係を強化しよう」という動きを援助するという方法で行なう。なお、H. R 研究委員会は計画の立案を行ない、実際指導には、担任と係教官とが当たるという指導体制がとられた。

なお、校外指導には H. R 研究委員も参加した。

6. 研究対象とその選定理由

A 高校第一学年4学級（男子170名）

第一学年を対象とする学校行事として、HRづくりを目的とした校外指導がすでに数年にわたって継続されていた。われわれはそれを一層徹底させるためにこの学年を対象に選んだ。

B 生徒会

研究テーマによる。

7. 評価の計画

- (1) アンケート形式による事前と事後との意識調査
 - (2) 作文調査
 - (3) 観察
 - (4) 面接調査
- 等の方法で行なう。

8. 実施期日の計画

- (1) 予備調査 3月中旬
- (2) 現地調査 3月下旬(担任)
- (3) 担任団との連絡会 4月10日
- (4) オリエンテーション 4月11日
- (5) 組織づくりと準備活動 4月中旬～5月中旬(担任)
- (6) 担任団との連絡会 4月28日
- (7) 担任団との連絡会 5月10日
- (8) 事前調査 5月20日
- (9) 校外指導 5月24～27日(3泊4日)
- (10) 事後調査 6月中旬

II 実施の概要と評価

1. 高一校外活動

A 指導目標

校外指導の準備と実施を通しての基礎的な組織づくりを行ない討議づくりに着手する。

B 指導

本委員会は、原則として、生徒に対する直接指導は行わず、担任が指導にあたったが、時には、担任教官の了解のもとに直接指導を助言することもあった。次に期日の順に、主として本委員会の行なった指導および準備の記録を中心に列挙する。

- (1) 予備調査 3月26日～27日(高一担任教官による)校外活動の場として、磐梯青年の家使用の可否の調査検討。
- (2) H・R研究委と担任団との連絡会 4月10日
内容 a. H・R研究委員会の研究方針
b. 当面のH・R指導について
i 班の編成と班活動 ii 学級代表の選挙 iii H・Rの指導の見通し
- (3) オリエンテーション 4月11日
高一生徒170名に対して、a. H・R活動の意義、b. H・R活動の具体例、c. H・Rの組織と生徒会との関係、d. H・Rづくりの場としての校外指導、e. 規律と点検など。
- (4) 担任による各H・Rでの指導〔組織づくり〕と準備活動 4月11日～5月19日
a. 班編成ならびに班活動、b. 学級代表の選出、c. 校外活動へのとりくみ、d. 学校代表会の指導、e. 各種委員会の指導
- (5) 担任団との連絡会 4月28日
a. H・R研究委員会の今年度研究方針についての了解と協力の要請、ならびに研究活動

の基本方針の検討, b. 校外活動の具体的な計画の検討。

(6) 担任団による学級代表会議の指導

磐梯での校外活動の連絡調整の指導

(7) H・R研究委員会による準備の促進

1. 生徒の活動の状況

校外活動の準備は、学級代表と各種委員が活動のしているだけで、一般の生徒は全く無関心であり、また、班が効果的な活動をしていなかった。

2. 生徒に対する指導 5月10日・11日・16日

このような状況に基づいて、つぎのような指導が行なわれた。a. 校外活動のねらいは何か, b. どのように準備すべきか, c. 班活動のねらいは何か, の3点を明確にするような討論が班および、H・Rで必要であることを指摘した。

(8) 担任団との連絡会 5月10日

つぎのような2点について担任および、研究委員会で検討された。

1. 生徒の校外活動に対する主体的な取り組みを起させるには、どのような指導が必要か。

2. 討議づくりの指導方法について(プランづくりをも含めて)

(9) 学級代表会議への助言 5月13日

a. 活動目的

準備に対する生徒の主体的な取り組みが不十分であった。その原因を見究め担任団とともに適確な指導の方法をみつけだす必要があった。

b. 議題

(i) 各H・Rでの準備の状況の報告

(ii) 準備見通しの確認

c. 成果

(i) 班活動の重要性の確認

(ii) 校外活動の目的について討論を一層深めることの必要性の確認

(iii) 討論の準備と方法について再検討する必要性の確認

(10) 生徒の意識調査 5月20日

(11) 拡大班長会議 5月20日

a. 議題

(i) 最終日の行動について

(ii) 討論の組織化について

(iii) 規律と点検について

b. 助言

(i) 討論の組織化が重要であること

(ii) 規律づくりと点検の方法について

c. 成果

討論の組織化規律づくり点検などの重要性を確認し自主的に取り組みはじめた。

(12) 学級代表会議 5月20日

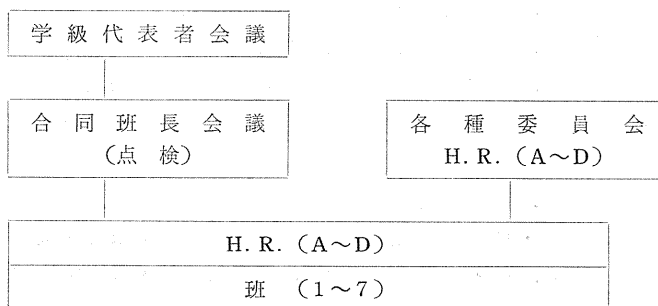
規律と点検についての原案作成

(13) 担任によるH・Rでの規律と点検の討論の指導

(14) 現地における指導

a. 現地では全体の動きを調整するため、次のような組織をつくり、スムーズに運営され

るよう指導した。



b. 点検はまず班で点検し、その結果を班長がもちよって、合同班長会全体の集約を行なう。それを班に持ち帰り班員に徹底させる方法を決めていたが、それが確実に実行されるように指導した。

c. 各種委員会

変化する情勢に対応して適確な対策をとれるように指導を行なった。

d. 生徒の活動の記録

つぎに述べる生徒の活動を準備と実施に分けて、その概要を実行期日順に列挙する。

なお学級により活動に多少の差はあったことを附言する。

(1) 4月10日(月) 入学式

11日(火) オリエンテーション。H・R研究委員会から活動の意義と校外活動のねらいについて聞いた。

12日(水) H・R活動への抱負をこめての自己紹介。

14日(金) 班編成, 班長選出, 学級代表選出, 役員選出。

15日(土) 担任から校外活動の概要について説明をうけ, 校外活動の日程などについて討議した。

21日(金) 校外活動のねらいと現地での討論のテーマなどについて話し合った。学級代表者

22日(土) H・R一校外活動での各種委員(登山・キャンプファイヤー・スポーツ委員等)の選出。活動内容などを討議した。

29日(土) 校外活動における討論をどうするかについて話し合った。

5月6日(土) 学級代表者

各H・Rにおける校外活動の進行状況の連絡調整。

11日(木) H・R研究委員会, 担任の指導による臨時H・R「校外活動のねらい」「班活動のねらいと活用」について討論, (役員以外の生徒は校外活動に対して無関心, 主体的なとりくみがない)。

12日(金) 校外活動, 特に討論のテーマと方法をいかにするか, 班活動をいかにして行なうか。

13日(土) H・R研究委員会の要請に基づいてH・Rごとの校外活動の準備, 特に討論のテーマとその方法についての連絡調整, 一般生徒の校外活動に対するとりくみが弱いので準備活動を盛り上げる必要がある。

16日(火) 臨時のH・R, 磐梯での校外活動のねらい, 特に班活動の意義などについて, ついで, 班ごとに討論の方法をどうするかについて話し

- 合いH・Rで決定する。
- b. 各種委員会の要求に基づく討議
- 20日(土) a. 研究委員会の事前調査をうける。
b. 班長, 学級代表, 各種委員会の合同会議。
討議内容は イ 日程について ロ 討論の集約について
ハ 規律づくりと点検について
c. 学級代表者会議規律づくりと点検について
- 22日(月) H・R学級代表会の「規律と点検」の原案を討議原案どおり採択。
- 23日(火) a. H・R日程について, 最終日のH・R単位の行動について討議。
b. 高一全員中学図書室に集合して校外活動全般について担任からの諸注意を置く。

(2) 現地での活動

場所 国立磐梯青年の家

期日 5月24日～27日(3泊4日)

24日

午前8時 上野駅集合

9時～ 車中, 大体班単位に着席、読書, トランプなどをした。

午後1時20分

1時40分 青年の家に到着

2時30分 オリエンテーション, 青年の家の係員から「所の規則」や「施設の利用」について説明を受ける。

3時40分 学級代表会による部屋の割当て, 班長による食券購入, 敷布などの分配, スポーツ委員会打ち合せ。

4時00分 学級代表会議 ①スポーツ大会の変更, ②夕べのつどいなどの役割分担, ③点検

4時10分～6時30分 スポーツ大会 ソフトボール・バレーボール・バスケットボールについての学級対抗戦, 夕べのつどい

午後4時30～45分 夕べのつどい

6時50分 点検 点検項目 ①オリエンテーション後の班長会議, ②スポーツ委員会, ③連絡のとり方について,

(注) 出席率が悪い、点検の意味を理解していない。班長は班員の総意に基づいての点検でなしに個人の主観で発言し、結果を充分班透にさせていない。この欠点は時程が忙しいため、最後まで改善できなかった。

7時～9時30分 H・R, 班別討論, によっては, の班が一緒になって討論をすることもあった。テーマその他は省略。

8時30分～9時 登山委員会, 明日の磐梯山登山について打ち合せ。

10時00分 消火就寝, 就寝前に各H・Rに班長を通じて連絡する。

25日

午前6時30分 起床

午前6時40分～7時 洗面清掃

7時00～20分 朝のつどい

7時20分 登山委員会より磐梯登山について連絡、班単位に登山すること、健康調査など。

8時45分 磐梯登山、大体、班単位に行動し、班員相互の理解が深まった。しかし、計画に多少無理があったため途中かけ足をしなければならなかった。

午後4時30～40分 夕べのつどい

6時45分～7時15分 点検 a. 昨夜の就寝状態について、b. 夕べのつどいの君が代事件について、c. 朝・夕べのつどいの集合状況について、d. 清掃について

7時20分～9時30分 H・R討論、班討論→H・R討論、の予定であるが、H・Rによっては、班討論に終始したところもあった。

8時30分～9時 キャンプファイヤー委員会 明日の行事の打ち合せ
キャンプファイヤー、キャンドルサービス、余興大会の何れにするかについて検討し、キャンドルサービスに決定した。

10時 消灯就寝

26日

午前6時30分 起床

6時40分～7時 清掃

7時～7時10分 朝のつどい スポーツ委員会より連絡

8時30分～11時30分 スポーツ大会 ソフトボール、バレーボール、バスケットボール

11時40分～4時20分 班別自由行動あらかじめの立てられていた計画どおり班別に自由に活動する。「バーベキュー」「散歩」「大かんけり大会」討論など。

但し所の規定により、行動範囲を所内に限定していたので所外での計画は変更させられた。

午後4時30分～40分 夕べのつどい

6時45分～7時 点検 a. 班別自由行動の報告、b. 就寝、起床について、c. スポーツ大会について、d. 明日の予定について

7時～9時 キャンドルサービス、過去の火(儀式)、現在の火(余興大会各H・Rごとの出しもの) 未来の火(儀式コーラス)

10時 消灯就寝

27日

午前6時30分 起床

6時40分～7時 清掃

7時～7時10分 朝のつどい

7時40分～9時45分 身辺整理、帰京準備、敷布などの返還

9時～午後1時30分 バスハイキング a. 五色沼～桧原湖～猪苗代湖～会津若松駅 b. 猪苗代湖～野口記念館～会津若松駅

2時30分～5時 車中

5時10分 上野駅解散

D 評 価

(1) 指導目標の達成の度合を明らかにし、その原因を指導の内容、方法との関連で考察し指導の内容、方法の適否を検討する。

(2) 調査用紙

a. 事前調査

5月に新しいH・Rをつくって以来、準備してきた磐梯青年の家でのH・R合宿を目前に控えておりますが、日頃のH・R活動をする中で感じた点を、以下の調査項目に率直に反映させて下さい。なおこの調査では指定された方法に従って、○あるいは◎、または×印を指定された数だけ回答用紙に記入して下さい。更に意見を求めている項目では、なるべく簡潔にそれを記入して下さい。

この調査は記名方式です。所定の欄に、クラス名、番号、氏名を記入して下さい。なお余白に感想などを書く欄を設けました。自由に記入して下さい。

I 現在、あなたの日常的な行動や考えにもっとも大きな影響を与えているものは、つぎのうちどれですか。一番大きいものには◎を、二番目のものには○をつけなさい。(二つだけ)

1. 家族
2. 友人
3. 恋愛
4. 性格
5. 成績
6. 受験(進学)
7. 将来の不安
8. 政治問題
9. 平和の問題

II 10~16のような生活態度がありますが、あなたの生活態度に近いものには○を、反対のものには×をすべてのものにつけなさい。

10. 人生は、その時、その時が楽しければ、それでよいと思う。
11. 今の世の中では、大きな夢や希望や理想よりも、ささやかな幸福を求めた方がよい。
12. 友情や愛情について深刻に考え悩むのは無意味だと思う。
13. 本当に信ずることのできるのには、その場その場の自分の実感だけである。
14. すべての人間関係は、ギブ・アンド・テイクでなければ損だと思う。
15. 芸術にせよ、日常生活にせよ、すべてムードが大切である。
16. あとさきを考えるよりも、ともかく行動してみることで。

III あなたは、つぎにあげた、17~18のH・R活動のあり方に賛成ですか、反対ですか。賛成ならば○を、反対のものには×をつけ、その理由を書きなさい。

17. H・Rは日常生活の中の問題や悩みを出しあい相互理解と信頼とを深める場である。
18. H・Rは共通の目的やその実現のための作業に各人がとりくむ場である。

IV あなたは、H・Rの時間をどのように過しますか。次のうちもっともあなれのように近いのはどれですか。1つ選んで○をつけなさい。

19. 提案したり意見をのべる。
20. 意見ぐらいはのべる。
21. 意見にまともでないので発言しない。
22. 質問したいことがあっても黙っている。
23. なんにも考えない。

V あなたが、そのようにH・Rの時間を過しているのはなぜですか。原因に関係があると考えられる項目を次の中から1つ選んで○をつけなさい。

24. 自分の性格
25. 自分の考え方
26. H・Rの運営のしかた
27. 教師の指導のしかた

28. H・Rでとりあげる話題や活動内容
- VI 現在のあなたのH・Rの雰囲気は、次のどの項目にもっとも近いと思いますか。もっとも近いものを1つ選んで○をつけなさい。
29. お互いに注意しあったり、他人からの注意を素直に受け入れる雰囲気がある。
30. たいがいのことは話しあえるが、人の欠点や失敗には触れない方が良いという雰囲気がある。
31. あたりさわりのないことしか話し合わない雰囲気がある。
32. いっても相手に受け入れやすいように心掛けることが大切で時々心にもないことをいってしまう雰囲気である。
- VII 磐梯青年の家のH・R合宿のねらいは、「H・Rづくりであって各人が主体性を発揮し、準備、活動、反省などをする過程で、相互理解に基づく、班づくり、H・Rづくりの基盤をつくることでひいては、生徒会へと集団の次元が高まっていくための過程である」。とする考えに、あなたは賛成ですか。反対ですか。いずれか選び○をつけ、その理由を書きなさい。
33. 賛成
34. 反対
- VIII 磐梯でのH・R合宿の準備の過程であなたは自分なりのプラン（全体のあるいは個々のでもよい）をつくってみましたか。次の中から1つ選んで○をつけなさい。
35. 自分なりにつくって班の話し合いの際に提案した。
36. 友人のつくってきたプランに意見を述べた。
37. 良く考えていなかったのでプランを練る会では黙って討論を聞いた。
38. 何も考えなかった。
- IX あなたは、班の構成をどのようにきめたらよかったと思っていますか。次の中から1つ選んで○をつけなさい。
39. 仲のよいもの同志が集まってつくる。
40. 教師が機械的にきめる。
41. 自分達で自主的にきめる。
- X あなたは班単位の活動の意義について、どのように考え、また理解していますか。次の中から、あなたの考えているのに最も近いものを1つ選んで○をつけなさい。
42. 考えてみたことがない。
43. 班活動を通じて、友人を獲得できるチャンスが多い。
44. 班は小集団なので、まとまりやすく、話し合いも十分できる。
45. 班では、H・R全体の活動より、各人の主体性が発揮しやすい。
- XI あなたの班では、磐梯での活動のプランをどの程度話し合いましたか。あなたの班の活動にもっとも近いものを1つ選び○をつけなさい。
46. 十分案を練りH・Rに提案し、H・Rの案の中心になった。
47. 話し合いを行なったが、十分な案にまとめることができなかった。
48. 案を練る話し合いに入る前の調整に間手どり結局何もできなかった。
49. 全く話し合いをしなかった。
- XII 磐梯でのH・R合宿の準備の過程であなたはH・Rまたは班のメンバーの性格や考え方、あるいは悩みなどについてどの程度理解できましたか。次の中から1つ選んで○をつけなさい。
50. 友人の悩み性格人柄などについては興味がない。

51. いろいろな考えや性格の人間がいるという印象をうけた。

52. 自分と同じ悩みを持っている友人を発見し共感を持った。

XIII 磐梯での活動の準備の過程で特定の班が強硬に意見を主張して不愉快なことはなかったですか。次の中から1つ選んで○をつけなさい。

53. 班が自己主張してH・Rとしてのまとまりがとれにくいことがあった。

54. 班の自己主張があっても話し合い（班長会議など）で調整できた。

55. 班はH・Rのプランに従って規律ある行動がとれた。

XIV 学年全体の活動である磐梯でのH・R合宿の準備の、他のクラスの進行状況はどの程度知っていましたか。つぎの中から1つ選んで○をつけなさい。

56. 学級代表から他のクラスの進行状況が常に報告され知っていた。

57. 班長から他の班の様子と共に報告されて知っていた。

58. 担任から他のクラスの様子が知らされて知っていた。

59. 他のクラスの様子は何も知らなかった。

XV あなたの班の1人が理由もなく仲間に断で掃除をサボったとしたら、あなたは次のどのような態度をとりますか。1つ選んで○をつけなさい。

60. 個人的に注意する。

61. 班員全体で彼の行動を批判する。

62. H・Rのとき、彼の行動を批判する。

63. 教師に言いつける。

64. 他人のことだから、黙っている。

65. 他人のことだから、干渉しないが、自分も適当にサボることにする。

XVI 前問の掃をサボった人が、他の班の者であったとしたら、あなたはつぎのどのような態度をとりますか。1つ選んで○をつけなさい。

66. 個人的に注意をする。

67. 彼の班の人に告げ、彼の行動を批判させる。

68. H・Rのとき彼の行動を批判する。

69. 教師に言いつける。

70. 他人のことだから黙っている。

71. 他人のことだから干渉しないが、自分も適当にサボることにする。

b 事後調査

磐梯青年の家のH・Rづくりの合宿は終わりましたが、この行事へのとりくみの過程でいろいろな問題があったと思います。そこで、この際、この行事への取りくみについて正しく評価し、今後のH・R活動に生かすため、また、次年度の参考にするため、諸君の貴重な経験をまとめたいと思います。以上のような理由で、H・R研究委員会は次のような調査を計画しました。あなたの率直な意見をお聞かせ下さい。

回答の方法は、指定された方法に従って、回答用紙の所定の欄に答えを記入して下さい。なお選択項目に適當なものがない場合にはその他の欄に○をつけ、その理由を書いて下さい。なお余白の欄には、磐梯の感想あるいは、今後のへの希望あるいは、今後のH・Rへの希望あるいはその他、何かありましたら記入して下さい。

I 磐梯のH・Rづくりの事前の準備は、十分にできていたと思いますか。1つ選んで○をつけなさい。

1. 十分
2. 不十分
3. その他

II Iで、準備が不十分、あるいは、それに類した答えをしたものは、その理由として次の中からいくつか選んで○をつけなさい。

4. 磐梯の行事の性格が十分わかっていないので準備にとりかかれなかった。
5. 中間考査が大きな障害となった。
6. 教師の指導が少なかった。
7. 事前の準備は教師がやるべきだ。
8. 事前の準備は委員や班長の仕事であって自分の関係したことではないが、もう少し、十分に準備しておいてほしかった。
9. 準備の段階で班活動が十分行なわれなかったために皆んなの考えや努力がまとまらなかった。
10. みんな、H・Rづくりなんて興味がなかったから、準備をする気になれなかった。
11. その他

III 磐梯での活動の中での討論（班別あるいは全体の）準備をあなたほどの程度しましたか。

12. ほとんどなにもしなかった。
13. 少しは考えてみた。
14. 自分の考えをまとめてみた。
15. 自分の考えをまとめる参考に本や雑誌を読んでみた。
16. その他

IV 磐梯での班別討論の様子はどうでしたか。

17. 皆んな率直に意見をのべたので、それぞれの考え方がよくわかった。
18. 皆んなの考え方が、大体のみこめた。
19. 班別討論であまり話さないものがいた。
20. 班の討論はすぐしらけた。
21. その他

V 諸君の磐梯での活動の感想文を読んでもみると、班づくりは成功したが、H・Rづくりは失敗であったとしているものが多かった。そこで、H・Rづくりは失敗した理由としてA群から、班づくりに成功した理由としてB群から、それぞれ該当するものをいくつか選びなさい。

A 群

22. H・Rでは特に寝食を共にしなかったから。
23. H・R登山などでは、班別でバラバラであったから。
24. H・Rでは集団が大きくなって、討論の場合、まとめようという努力をしなかった。
25. H・Rの討論の場合、学年全体でまとめようとしなかったから。
26. その他

B 群

27. 缶詰を一緒に分け合って食べたから。
28. ベットを並びて寝たから。
29. 登山のとき、皆んなで助け合い、励ましあったりしたから。
30. 小さな集団なのでお互いに遠慮しあったから。
31. 小さな集団なので、話し合う機会が多かったから。
32. 話し合いのとき、いつでも、まとめようという気持を持っていたから。
33. その他

VI 磐梯でのH・Rの全体討論、あるいは帰ってからのH・Rでのあなたの過ごし方はどうでし

たか。あなたの過し方に最も近いものを選んで○をつけなさい。

34. 提案し、意見をのべた。
35. 意見ぐらいはのべた。
36. 意見にまとまらないので発言しなかった。
37. 質問したいことがあっても黙っていた。
38. 何も考えなかった。
39. その他

VII 磐梯以後、あなたのH・Rの雰囲気は、つぎのどの項目にもっとも近いと思いますか。1つ選んで○をつけなさい。

40. お互いに注意し合ったり、他人からの注意を素直に受け入れる雰囲気がある。
41. たいがいのことは話し合えるが、人の欠点や失敗には触れない方がよいという雰囲気がある。
42. あたりさわりのないことしか話し合わないという雰囲気がある。
43. いつでも相手に受け入れやすいように心掛けることが大切で時々心にもないことをいってしまう雰囲気である。
44. その他

VIII 磐梯での活動は、班活動、H・R活動が中心で、学年全体の活動は少なかった。これについて、他のH・Rの討論の様子を知るなど経験交流を設けた方がよいという声が聞かれたが、あなたはこの意見についてどう思いますか。つぎのいずれかを選びその理由を書きなさい。

45. 賛成
46. 反対
47. わからない

IX 磐梯での活動内容は、目標にそぐわない面もあったかも知れませんが、H・Rづくりという件から最も効果があがったと思う行事には○を、効果の少なかったと思われるものには×をつけなさい。また、その他には、こんな行事がほしかったというものを記入して下さい。

48. 班別討論
49. H・R全体討論
50. 登山
51. 班別自由行動
52. キャンドル・サービス
53. 五色沼（猪苗代湖）バスハイク
54. その他

X H・Rづくりという目標をもって、青年の家を使用することにあなたはどう思いますか。

A群から1つ選び、B群からその理由をいくつか選びなさい。

- A 群
55. 賛成
56. 反対
57. わからない。
- B 群
58. 規則が厳しすぎる。
59. 食事が悪い。
60. 施設が悪い。

61. 職員が官僚主義的である。
62. 時間が少なく忙しすぎる。
63. 国旗掲揚，君が代反対。
64. 自然環境が悪い。
65. 経費が安くてよい。
66. 施設がよい。
67. 時程にあわせて計画をつくれるからよい。
68. 自然環境がよい。
69. 規則的でよい。
70. その他

XI 集団で行動する場合には、必ず規律を必要とします。規律は民主的に決定さるべきだ。従って点検も不可欠になります。H・Rで活動する場合、規律づくりと点検はいかにあるべきかあなたの意見を聞かせて下さい。

XII 磐梯での活動の準備、現地での活動において、教師の指導性と生徒の自主性の対立でしばしば問題を生じました。これについてあなたはどうか考えますか。H・Rづくりという観点からあなたの率直な意見を聞かせて下さい。

(3) 評価の観点

- ① 生徒の主体性の強化ができるかどうか。
- ② 生徒の連帯性の強化ができるかどうか。
- ③ 生徒集団の次元の高度化ができるかどうか。
- ④ 生徒集団の個の解放と自主規律の育成ができるかどうか。

(4) 評価観点の具体化

本委員会は評価の観点①～④を次のように具体化し評価を進めていく。

- ① 個人が主体的であるということはどういうことか。
 - i 自己の客観状況の理解がどの程度できているか。
 - ii 目的意識がどの程度明確になっているか。
 - iii i, iiの理解と判断に基づいてどの程度活発に行動しているか。
- ② 個人が連帯性を持っているとはどういうことか。
 - i 自己を集団の中に位置づけることがどの程度できているか。
 - ii 自己の目的意識を集団の目的と結びつけることがどの程度できているか。
 - iii 自己の行動を集団の行動と一致させることがどの程度できているか。(ここでは、追求＝相互批判および援助を含む)
- ③ 集団の次元が高度であるということはどういうことか。
 - i 集団の力がどの程度発揮できているか。
 - ii 上位集団への志向がどの程度できているか。
- ④ a. 解放とは何か。
 - i 集団の中での個性の発揮の度合、ここでは集団の中で、個人の潜在的能力や性格の伸長・発揮の度合がどの程度であるか。
 - ii 各個人の欲求の充足の保証がどの程度できているか。
- b. 規律とは何か。
 - iii 集団の目的と個人の解放のための規律を守る度合はどうであるか。

なお①～④の評価観点は、事前、事後調査の分析の過程で、次第に具体化し、上記のよう

にまとめられた。そのため、調査内容は必ずしも十分にこれらの具体化した評価観点に応えることが出来ていない。

(5) 評価

本委員会は、生徒がその自主的活動の展開の過程で、われわれの指導目標にどれだけ接近したかを客観的に評価するため、次のような方法を用いた。すなわち指導目標の①、生徒の主体性の強化「i 自己の客観状況の理解がどの程度できているか」について最もすぐれているものを5、最も劣るものを1とし5段階法で評価した。以下①～④のそれぞれのi～iiiについてもほぼ同様に5段階法で評価を行なった。先にのべたように、評価作業の際の基準と調査内容との不一致、すなわち調査の段階と評価の段階で、評価観点の具体化に大きな発展があり、評価に耐える設問は少なくなった。しかし例えば①のiii、②のiiiなどについてはほぼ評価に耐える調査内容があったのでそれらを中心に評価を進める。さらに④のi、ii、iiiなどの評価項目は事前、事後調査を通じて適切な設問がないので観察、作文などで評価した。

① 主体性

a. 主体性の一側面である〈行動の積極性〉

事前および事後調査においてわれわれは生徒に次のような設問をした。

イ. 設問

あなたはH・Rの時間をどのように過しますか。次のうちもっともあなたとようすに近いのはどれですか。1つ選んで○をつけなさい。

19. 提案したり意見を述べる。
20. 意見ぐらいは述べる。
21. 意見にまともらないので発言しない。
22. 質問したいことがあっても黙っている。
23. なんにも考えない。

ロ. 解答

(A組)

選択肢番号	事前	事後
19	8人	12人
20	18	21
21	13	8
22	3	1
23	0	0

ハ. 評価基準

選択肢番号19に答えた場合を5、20を3、21、22、23を1と評価した

ニ. 結果

H・R別平均得点を示すと次の表のようになる。

H・R	事前調査	事後調査
A	2.6	3.1
B	2.5	2.5
C	2.7	2.9
D	2.5	2.8

ホ 考察

2.6 という平均値は、40数人という集団内で、しかも短時間という条件のもとでの発言の態度であることを考えると、全体としてかなり高いレベルにあったといえる。

事後の調査での変化をみると、全体的に積極性が伸びている。A組でいえば、大多数の生徒が、H・R討論で意見を言うような状態に達している。これは指導の成果と考えてよいのではなかろうか。しかるに、B組では事前と事後の間に変化が認められない。これは、校外指導の際、班別討論に終始し、H・R討論（各班の討論の成果を集約する目的で計画されていた）を行なわなかったため、H・R活動のあり方を充分学びとることができなかったことに起因すると考えられる。またこのことから班討論とH・R討論とのつみ重ねの重要性が明らかである。

b. 主体性のうち〈客観状況の理解〉

H・Rでの担任による観察、本委員会による作文分析どこの目標の達成の度合をみると、今回の班活動に中心をおいた校外指導の中で、生徒達の〈自己のおかれた客観状況の理解〉が深まったとは言えない。これは準備、実施の段階の班理論で、自分たちの生活状況そのものをムキ出しに洗い出すほど深刻な追求がなかったこと、またとくに社会科学的な学習そのものに取りくむことがなかったことなどによると考えられる。班活動の訓練がまだ初期の段階であったこと、討論のテーマの選択についての指導が弱かったことは、われわれの反省点としてあげなければならない。

c. 主体性のうち〈目的意識〉

事前の段階までは、生徒たちの学校生活に対する目的意識は、稀薄であった。単に東大に入るという、大学受験体制のルールの上に乗った意識が、彼らを強く動かしているが、学校生活の中で日々感じている生活の空しさ、すなわち〈孤立感〉や〈無力感〉に対しては、多くの生徒は、まだ甘受するだけであり、あるいは、なんとかかしたいと思っても結局のところどうしようもないという諦めに終わってしまうにとどまり、それを克服しようとする意識はなかったといえる。

例えば、校外活動の受けとめ方にしても、〈学校の計画だから行かざるを得ない〉という意見がしばしばH・Rで聞かれた。そこには、それを自分達のものにしよう。とする意識が欠けている。班をつくっても、なんのために班活動をやるのか自ら考える姿勢は弱く、疎外された自己の状況と結びつけた上で〈目的意識〉をもって、それを遂行していこうという態度は、班員にみられず、班長会議の場でも、この意識は稀薄であった。しかし、準備活動の途中で、Planづくり（現地での行動予定）に、各班が自分達の要求をだすように変わって来た。さらに、現地での動きを観察したところでは、以前には議論のための議論が多かったのに対し、互いに勝手な言い合いに終始することはなく、まとめようとする努力がはっきりみられるようになった。ここに〈目的意識〉の高まりの一応の成果が認められる。ここで、一見、矛盾した評価すなわち〈自己の客観状況の理解〉が殆んず変化せず、低い水準にとどまっているにもかかわらず、それを前提とするはずの〈目的意識〉の方に向上がみられるという評価がでてきている。これは、たとえば客観状況の充分な把握がなくとも、現在の学校生活の中で感じている〈無力感〉から、なんとかして逃がりたいという感覚的な気持ちで、かなりの生徒の中に潜在しており、班活の場が与えられたことにより、それへの期待で彼らを中心に次第に目的意識が育てられたとみることによって納得できる。現在、生徒たちが、文化祭への取りくみを、班を土台とする活動で、かなり積極的に行なっていることは、目的意識が確立されて来つつあることを示していると考えられる。それは班活動の一つの成果である。しかし、その〈目的意識〉は〈客観状況の理解〉と結びつかなければ、充分なものになりえないが、この点に関しては、まだ不十分な

段階である。

③ 連帯性

a・連帯性の一側面である〈信頼と相互理解〉

われわれは、校外指導の前後回の調査で、次のような設問をして、指導の前後における〈信頼と相互理解〉の変容を評価する。A組では次のような結果が得られた。

イ 設問

現在のあなたのH・Rの雰囲気は、次のどの項目にもっとも近いと思いますか。もっとも近いものを一つ選んで○をつけなさい。

- 29. お互いに注意しあったり、他人からの注意を素直に受入れる雰囲気がある。
- 30. たいがいのことは話しあえるが、人の欠点や失敗には触れない方が良いという雰囲気がある。
- 31. あたりさわりのないことしか話し合わない雰囲気である。
- 32. いつでも相手に受け入れやすいように心掛けることが大切で、時々心にもないことをいってしまう雰囲気である。

ロ 解答

(A組)

選択肢番号	事 前	事 後
29	6(人)	10(人)
30	10	14
31	18	4
32	3	6

ハ 評価基準

選択肢番号29に答えた場合を5、30を3、31、32を1と評価した。

ニ 結果別平均得点を示すと次のようになる。

ク ラ ス	事前調査	事後調査
A	2.2	3.1
B	2.2	2.7
C	2.8	3.3
D	2.0	2.9

ホ 考察

各における〈信頼感と相互理解〉の度合は、事前調査においては、「たいがいのことは話し合えるが、人の欠点や失敗には触れない方がよい」という状態と「あたりさわりのないことしか話し合わない」、あるいは、「時々心にもないことをいう」という状態とと中間にあった。事後調査においては、評価3の「たいがいのことは話しあえるが、人の欠点や失敗には触れない方がよい雰囲気がある」という状態になった。このようなH・Rの状態の変化は何に起因するか。校外指導の準備と実施の過程における組織的な活動の積み重ねがH・R構成員間の理解と信頼とを深めたものと考えられる。しかしながら、班員同志で自己批判と相互批判(追求)および援助ができるような段階にまでは達していない。

学級別にみるとC組は、事前調査の段階で②のiii、すなわち、〈相互理解と信頼〉は最もよかったが、校外指導を通じての変容は著しくはない。しかし最も高い段階に達している。B組は、向上の度合が弱く、かつ最も低い段階にとどまっているが、それは、このクラスで

は班別討論に終始し、H・R討論を行なわなかったことが考えられる。このH・Rの生徒の1人は、この行事を通じて学級内に派閥的傾向(班のことと思われる)ができていることを指摘していることは大変興味深い。ここでも班⇄H・R⇄学年という積み重ねが重要であることがわかる。

b. 連帯性のうち〈集団での位置づけ〉

生徒達は、H・Rをはじめ学校内の組織活動から逃避し、個人主義的自由の主で〈孤立感〉に陥っているばかりか、相互の関係を敵対的にとらえていることさえある。このような傾向は、受験体制や、教科指導、教科指導における評価などに起因するものと考えられるので、特活指導のみによって是正することは出来ないが、H・R指導、班活動を通じて〈不信感〉を除去し〈集団での位置づけ〉を体験的に理解させることは出来る。校外指導の討論で、「戦争」をテーマとした班がいくつかあったが、日頃「ヴェトナム」にも「中東」にも無関心を装っていた仲間が「戦争」を憎み正義感から野暮な行為を憎む自分と同じような青年であることを知って感動したり、仲間が同時代の青年として同じような悩みをもっていることを知って、孤立感から救われたりした生徒もあった。

このように討論や話し合いによって生徒達のともすれば陥りやすい〈敵対関係〉を〈連帯性〉の方向に導くことが出来る。しかしながらそれらの体験や共感を厳密な意味での〈集団での位置づけ〉を高める為には、ここでも社会科学的な学習の裏づけが必要であることは、言うまでもない。

c. 連帯性のうち〈自己の目的意識を集団の目的に結びつけること〉

既述の通り生徒達はそれぞれに目的意識が稀薄であったが、班活動の場が与えられたことにより生徒個人の目的意識が高まった。それに伴ない、集団の目的に自己の目的を結びつけることについてかなりの成果があがったと考えられる。校外活動そのものに取り組む意識は、オリエンテーションをはじめ、H・Rにおける教官の指導にもかかわらず、著しく低いものであったが準備の過程で、例えば〈Planづくり〉で次第に一人一人の目的意識が明確になり、それを班、H・Rのそれと結びつけようとする努力がみられるようになった。

ある学級代表は、自分の意識の中にあるのは名誉欲であり、それ以外に学級代表として何かをしなければならぬという責任感を持ち合わせていないし、H・R活動など無意味だというような発言をしていたが、準備が進むにつれ、学級代表会のメンバーとしての役割をよく果たし、現地のH・Rでの行動も集団の目的をよく把握し、しっかりしたものに成長していた。

③ 集団の次元の高度化

a. 集団の力

集団の力は、〈集団の要求を引き出し〉〈要求を結集し〉そして、〈要求を実現する力〉の3つに分けて考えることができる。しかし、これらは相互に密接に関連しているので、評価する場合には、単に〈集団の力〉として考える。

イ 事前の状態

校外活動前のH・Rにおいては、各人の要求が沈潜し、結集されない状態であったから、その実現は困難であった。一例をあげれば、本校では移動教室制度をとっていて、生徒は数学教室から国語教室へ科目が変わるごとに教室を移動している。しかし、清掃の分担はH・Rごとで、一般に高学年の分担の教室は掃除が不完全であり、非常にきたない場合が多い。他の学年の生徒は移動教室制のため当然その被害をうけていた。これに対して、高1の生徒は、ブツブツ言うだけで、要求を結集して、高学年に改善を申し入れるという〈力〉はなく、あきらめていた。

ロ 事後の状態

校外指導後、保健委員とくに高一の委員たちが委員長をたすけて各に大掃除を呼びかけた。それは全生徒によって、実施されることになった。その結果は見ちがえる程きれいになった。生徒昇降口を分担している高1のH・Rの保健委員からの要求で学校に対して、昇降に泥落しのマットの設置を要求してきた。これらは、生徒が、自分達の不利益には黙っていないで〈要求を結集する〉ことができるようになったことのあらわれであり、〈集団の力〉として前進したと考えられる。

ハ 考察

生徒は、今まで、個々人の要求が、結集されたり、〈集団の力〉によって、それが実現された経験に乏しかった。

生徒達は、班活動の場を与えられることによって、個人が持っていた要求が出しやすくなった。班活動の徹底を求められたことにより、彼らは、自分達の要求を一つのものに結集せざるを得なくなった。各班の要求は、H・Rでまとめ、彼らの手で実現されていった。これらの過程では、少なくとも班段階における〈集団の力〉は、ほぼ完全に実現された。この体験は、いろいろな段階における、〈集団の力〉を育土台になったと考えられる。もともと生徒達には、多くの要求が潜在していたので、その土台を与えられたことによって、〈集団の力〉が築きあげられたのである。

b. 上位集団への志向

準備の初期では、班会議→班長会議→H・R討論→学級代表会議という討議の積み重ねのための組織は、指導を通じてすでにつくられていたが、班会議は単なる班別の話し合いにとどまり、H・Rにその討議が集約されるまでいかに低い水準にあった。H・R討議にしても、学年全体の発展を目指して行なうような姿勢は見られず、単独のままに終わっていた。したがって、班員としての生徒は、H・R全体の問題に関心が薄く、H・Rの一員としての生徒は、生徒会に無関心という状態であった。事後調査の時点の彼らの意識を作文でさぐってみると、一連の活動の結果を「班活動は成功したが、H・Rづくりは不成功」という発想法でとらえており、それはきわめて多くの生徒の見解となっている。班活動に対するこのような見方、すなわち班集団の活動とH・R集団の活動を分離してしまう発想法の中には、組織的活動の積み重ねの意義の無理と、上解位集団への志向のなさが如実にあらわれている。したがって、ここには〈志向〉の向上が見られず、わずかに生徒の一部に「班活動の成果は、やがてH・R活動の土台となって、より大きな集団の中で生かされるだろう」と考えているものがある状態だった。この原因は、校外指導が高1のH・Rづくりだけを目ざすものではなかったが、指導の段階で指導目標が後退したところにあると考えられる。すなわち指導の側で、H・Rづくりを学年全体へ、さらに生徒会へと展望を持たせて行なうという方法を十分に徹底させることが出来なかったこと、換言すればそれを生徒に強く要求しなかったことに求められる。しかし、二期期に入ってからの彼らの状態には明らかな変化があり、文化祭や会則改正へのH・Rの取り組みを通し、組織的活動を積み重ねることによって、その意義の理解と成果のある程度の確かめができつつある。例えば文化祭の統一スローガンづくりに対して、全校的には不要論的傾向が強かったのであるが、高一の学年の各H・Rとそれを背景にした学級代表会議からつきあがりがあり、それが大きな力となって成功にまでこぎつけたことを考えてみれば、彼らの〈上位集団への志向〉にかなりの発展があったと判断できる。

④ 個の解放と自主規律

われわれは、この観点を i 〈集団の中での性格や潜在的能力の発揮の度合〉、ii 〈各個人の

欲求の充足の保証の度合＝個々人が期待し、集団が容認した個別的欲求＞ならびにiii＜集団の目的と個人の解放のための規律を守る度合＞の3つに具体化した。従って詳細もこの観点から行なうべきであるが、iとiiについては、事前・事後調査にふさわしい設問がないし、また彼らの行動や作文について調査・検討を加えたが、現段階において、この評価は非常に困難なので、今回はこの観点からの評価は行なわないことにした。それ故に、われわれは、＜個の解放と自主規律＞については、iii＜集団の目的と個人の解放のための規律を守る度合＞という観点から生徒の行動の姿容を評価する。

イ 事前の状態

生徒の＜集団の力＞が弱い段階に止まっていることは、先に述べたとうりである。彼らの規律意識も、また非常に低いものであったそれは、一生徒の作文の「H・Rで規律だの点検だのとか固苦しいことはあまり言うべきではないと思う。自主制にまかせ、他人にひどく迷惑をかけなければよい」ということばによくあらわれている。そこには集団からの個人主義的な逃避の姿が明瞭にうかがえる。さらに、彼らの＜規律＞に対する意識の特徴として、規律は自分達でつくり上げるものではなく、他人、とりわけ、教師からの＜……するな＞が規律なのだという他律的な捕え方をしている点も指摘できる。この間の事情がよくわかる一例を次に紹介したい。

校外指導で、われわれは、＜規律づくり＞と＜点検＞を重要な指導目標にしていたが、あくまでも生徒の自主的な活動によるものを期待していた。しかし、「自主規律」の必要性に気づいている生徒もいたが、その割合は少なく、大多数の生徒は「他律」的な理解の段階であった。従って、彼らは組織的な活動（班ごH・Rご学年）の積み重ねによって、校外活動の＜規律と点検＞をまとめあげることが出来ず、結局、学級代表会議が単独で作成した原案をH・Rで承認するという形をとった。しかも、各人が充分納得したとはいえないものであった。このことは、一つにはH・Rの生徒の＜規律＞に対する他律的な理解のあらわれであるといえる。そしてまたこうした方法は＜自律＞化にいくことを妨げる結果をも生んだ。点検についての彼らの態度をみれば、生徒の規律についての実態はもっとよく理解されよう。現地での点検はつ4のH・Rの学級代表・班長による合同班長会議で毎日行なった。

班長はまず班内で点検し、その結果を合同班長会議に集約し、さらにそれを班長が必ず班員に徹底することを申し合わせた。しかし、実際には、班長は班での「班員の点検」を経ずに自分の主観で発言し、また、その結果を班内に充分伝えていないものが多かった。むろんそれに対する班員の班長に対する追求も行なわれなかった。事後調査である生徒が、現地で「点検が行なわれていたとは知らなかった」と書いているのを見ても生徒が＜規律と点検＞に対して低次の関心しか示さず、実際の行動の面でも他律的な行動しか出来ないでいたことがわかる。こうした規律意識の低さは現地での生徒の活動の効果を減少させた。

ロ 事後の状況

生徒は文化祭のとりくみを6月中頃からはじめていた。特に文化祭は班活動を中心に展開することをそれぞれのH・Rで確認した。効果的な準備活動をするために、班員が約束された時間に集まり、討論したり、作業を進めたのは当然のことであるが、夏休みの申合わせを、彼らの一部は、しばしば破り、作業の進行を妨げた。暑い日なたをわざわざやって来た「バカをみた正直者」たちが、班規律の違反者を追求しだしたことはいうまでもない。

こうした活動を通して、二学期になると、少なくとも班の中では規律を自主的につくりそれを破るものを追求する姿勢が生まれて来た。そこに＜規律＞意識の発展がみられる。しかし、H・Rやそれ以上の集団ではそれがまだ不十分である。

ハ 考 察

校外活動を実施する中で、生徒はその活動に必ずしも満足感をいただけていない。

その一つの理由は、自主的活動を求められながら規律さえ自分達でつくれなかった〈集団の力〉の弱さにある。この経験は各H・Rで文化祭を準備する際に生かされた。

二学期の各班ならびにH・Rでは真の〈規律づくり〉とは言えないにしても、それに近いものを生徒の手でつくって、文化祭準備の活動の基盤とした。さらにある班では、黙ってサボっている仲間に対して自宅に電話し学校へ戻るよう要求したこともある。

〈規律づくり〉と点検における生徒達のこの変容に校外指導がかなり重要な役割を果たしていたと考えられる。

2. 生 徒 会

生徒会指導は、生徒部の係教官が行なうのであるが、係の了解のもとに直接指導したこともあった。以下は、生徒部ならびに本委員会が行なった指導事項の主なものである。

A 指導目標

指導目標①～④の達成を生徒の中に芽ばえつつある「H・Rと生徒会との関係を強化しよう」という動きを援助する中で行なう。

B 生徒会の指導

(1) H・R委員会（仮称以下同じ）

「H・Rとの関係を強化するねらいをもって生徒が自主的につくった組織」を、彼らが十分運営できるように次の助言をした。

- a. H・R活動の経験の交流と蓄積の場としての機能を果たす。
- b. 生徒会の基礎的集団であるH・Rの要求を組織化する場としての機能を果たす。
- c. 生徒会の諸問題を生徒全員のものにする機能を果たす。

(2) 会則改正

前生徒会執行部が改正問題に取り組み、草案をまとめ、現執行部がそれを受け、更に内容を深め、H・Rで討論を経て、総会に提案して可決する前の段階であるが、この過程で次の点について助言を行なった。

- a. 生徒の関心を盛り立てる宣伝活動について
- b. H・Rで討議を深めるための組織的活動について
- c. 自主的な規律づくりの必要性について

(3) 学校行事へのとりくみ

生徒会は、文化祭などの行事において、実行委員会が、H・Rの討論の積み重ねの上に立って企画・立案・実施がなされるように、実行委員会とH・Rの両者に働きかけを行なっている。本委員会は、生徒会のこの自主的活動を援助した。

C 生徒会の活動

生徒会の活動の中で、前の指導事項と関連したもののうち重要なものについて述べる。

(1) H・R委員会（仮称、以下同じ）の活動

H・R委員会は「生徒会活動は基礎集団であるH・Rの要求を組織化して行なわないと低迷状態を打破できない」という反省から実験的につくられたものであるが、それを生徒会の組織として位置づけることが会則改正の骨子でもある。H・R委員会の構成は各H・Rから2名のホール・ルーム代表が出席する。主な活動内容はつぎのようなものであった。

- a. H・R活動の経験交流ならびに集約
- b. 会則改正問題のH・Rでの討論

c. 行事に対するH・Rのとりくみ

特筆すべきは、aの問題で、41年度の高一の生徒が自分たちの行なった校外活動の記録「H・Rづくりの記録」をつくり現高一生徒の校外活動の参考資料として提供したこと、そしてこれに対して高一の生徒が先輩の経験を土台にして、よりよいものを後輩に残さねばという意欲を起したことである。

(2) 会則改正

生徒会前執行部が提起した会則改正問題は草案作成の段階にとどまりH・R討論まではいたらなかった。

現執行部はこの草案を受けついで、執行部内で討論を続け内容を深めていった。その中で最も重要なことはH・R委員会構想であった。前執行部の段階では、H・R委員会は常任委員会の一つとして図書委員会・視聴覚委員会・保健委員会・運動委員会・学芸委員会などと同様の位置づけを与えられていた。これに対して現執行部は今までの生徒会活動の低迷を打破するための一層有効な組織としてH・Rの委員会の機能を重視する立場に立ってH・R委員会を独立の委員会とした。また生徒部ならびに本委員会の指導においてH・R委員会は自主的な規律づくりの機能を持つように改めつつある。生徒会執行部は精力的にすすめて来たこの原案を係教官に提出した。これに対して教官の側からつぎのようないくつかの疑問が出された。例えば生徒自治会という名称について「自治という言葉は必要があるのか」あるいは「H・R委員会を常任委員会から独立させた理由は何か」とか「代議員会の構成がH・Rにかたよりクラブなどが軽視される傾向はありはしはしないか」「生徒会の諸機関の顧問は〈助言する〉のではなく、〈指導する〉のではないか」とか等々であった。これに対して、生徒会は一貫して改正の基本点すなわち、H・R委員会の機能の重視、代議員会の構成の必要性を強調した。その背後には日常の学習活動があって次第に教官側を説得していった。しかし反面、生徒全体の改正への盛り上りは執行部の思うようにはいかなかった。その理由の一つは会則改正の意義、すなわち生徒会活動低迷打破についての意欲という点で執行部と生徒全体との間にギャップがあったためである。これを組織的活動の欠陥によるものと判断した執行部はその強化に努力している。

(3) 学校行事へのとりくみ

生徒会は文化祭などの行事を実施する過程でつぎのような活動を行なった。

- a. 例年文化祭はマンネリ化の傾向が指摘されてきた。事実積極的に活動する生徒は限られており、全体の生徒は無気力に「なんとなく参加」している状態であった。また各クラブ、H・Rそれぞれの自己主張に終り、全校的なまとまりを欠いていた。生徒会は以上のような低迷状態の原因の一つを文化祭の目標が不明確にあると考えてスローガン作りを呼びかけた。その結果「仲間とともに10代力で築きあげよう文化祭」の統一スローガンが実行委員会で採択された。
- b. 文化祭などの行事の低迷やマンネリ化の原因として、先にあげた目的意識の不明確さの他に生徒会は活動の基盤の欠除(学級としての受けとめ方が不十分。組織化が不十分)もまた大きな原因ではないかと考えた。今までは主として事務的な調整に重点を置いて活動してきた文化祭実行委員会に対して、討論を背景に文化祭のプランを企画・立案するように要求した。またH・R委員会に対してもH・Rで組織活動を強化するように要求した。その結果、特に高一などでは、「文化祭をH・Rづくりに役立てよう」という考えのもとに班活動を中心にした活発な準備活動が展開されている。

D 評価

(1) 生徒会の活動状態の変化

a. H・R委員会について

前生徒会執行部の時期に、すでに彼らは、H・R委員会を〈実験的〉に召集して生徒会の諸問題をのH・R成員のものにしようと努めていた。したがって、執行部そのものの〈低迷〉打開への意欲は高い水準に達していたことが指摘できる。しかし、H・R委員会に出席するH・R代表は決してH・R全体の意志を代表する立場で参加していたとはいえず、個人的な意見の発表者にとどまっていた。そして、H・Rの一般生徒ともなれば、なおさらのこと、H・R委員会への関心は殆んどなかった。無関心な生徒と、はるかにすすんだ少数者一執行部とのギャップが、この時期の特徴であった。

二学期の始め頃からギャップを痛感した執行部は、その差を解消するために、H・R委員会を生徒会とH・Rとの実質的な連絡機関とするように努め、班やと深く結びつくよう組織的活動の強化をすすめている。一方、H・Rからも、まだ不十分とはいえ、それに応えるかのように、H・R討議の集約をH・R委員会に結集させようとする動きが出て来ている。

b. 会則改正について

今年の5月(役員改選期)以前の段階では、会則改正の必要性についても、また自主的な生徒会活動の展開のための理念やその実現のための組織の改造についても、危機意識を強く持つ執行部のみによって思考され、一般生徒は、無関心のまま〈おいてきぼり〉をくった状態であった。

二学期になって執行部から会則改正草案が全生徒に配布される状態にまで達し、各H・Rでこの問題へのとりくみははじめだったが、現在でも、まだ改正の意図が充分浸透しているとはいえずしたがって、討論の深まりもきわめて不十分など、かなりのH・Rで立遅れがみられる。現在、生徒会執行部は、H・R委員会を通じて組織活動を促進するという方向でこの立ち遅れの解消に取りくんでいる。

会則改正をめぐる生徒会執行部の動きの中で、もっとも混乱したのは、〈自主規律〉であった。会則改正が前執行部によって検討されていた段階では、〈自主規律〉が〈組織の改造〉とともに改正の主眼であったが、新執行部に受け継がれてからは、〈組織の改造〉の影にかくれてしまい、改正原案と一緒に配られた「改正要点と問題点」という印刷物の中で、「風紀委員会については、今回は取り上げない」ことが明らかにされた。これは大変な後退であるが、それには次のような事情があった。

新執行部も、最初〈自主規律〉を重視して、副会長がこの問題を分担し「風紀委員会」を組織することを検討していたが、係の教官から〈自主規律〉のむずかしさ、したがって、組織については慎重に検討し、討議を深めるように指導されて、執行部の意見が「後退」したと考えられる。ともあれ〈自主規律〉は生徒部と本委員会の一致した指導方針であり、「慎重に」という指導の意味は、本校の生徒会活動の現状からして、〈自主規律〉の機能を良く果し得る組織はH・R委員会以外にはないということで、改めて係教官から会則改正の中でとり上げるよう指導がなされた。現在執行部は〈自主規律〉についての立ち遅れを解消するために精力的にとり組んでいるが、まだ、H・R討論の段階には、達していない。

c. 行事(とくに文化祭)について

文化祭を遠望する一学期のはじめ頃は、生徒達の中には例年の文化祭で、期待したほどの充足感が得られないことが重なったためか、「やってもしょうがない。めやよう。」と

いう意見さえ聞かれる状態であった。したがって、マンネリ化傾向を打破しようとする動きはみられず、取りくみへの立ち遅れが目立った。

夏休みの前後から、さきに生徒の活動のところで見たように、生徒会と文化祭実行委員会、H・R委員会の共同行動により〈スローガンづくり〉と、〈組織づくり〉との二つの柱によって積極的な取りくみを行なう段階に達している。

(2) 評価

以上のことから、当初本委員会が掲げた①～④の4つの目標はかなり高い水準に向って進んでいると判断できる。

(3) 考察

この成果は

- a 生徒会執行部のなかに、低迷する学校生活の現状を打開していこうとする意欲があり、またその実現のための展望が芽生えていたこと。
- b そうした生徒の自主的な動きを、援助するという方法で行なった指導が適切であったことによると考えられる。

H・R委員会に例をとってみれば、生徒会をH・Rと緊密に結びつけることによって生徒会を生徒全体のものにし、無力感と孤立感に苦しむ学校生活をなんとかかまともにして行きたいという動きは、既に前生徒会執行部の中で強く意識され、informalな機関という形で実験的に試みられつつあった。しかし、執行部の改選とともに一時的にこの動きは中断する。やがて、この問題に取りくみはじめた現執行部の前よりも後退した水準からの進行過程に前執行部が積極的に援助した。formalとはいえないこのような動きは成果をあげるのに多くの困難の克服を要する。そうした執行部関係生徒の動きに対して、生徒部および本委員会が助言を与えたことが目的と組織とをかなり明確にした執行部草案の配布という段階にまで到達する成果をもたらしたと言えないであろうか。

しかし、大きな欠陥として指摘しておかなければならぬ点は、執行部の異常なほどの努力にもかかわらず、まだそれが全校生徒一人一人の問題になっていないという事実である。依然として、まだ解消しえない会則改正への関心と意欲とのギャップである。この原因をわれわれはつぎのように考える。

- I 生徒の組織活動がなお不十分であること。
- II 指導する主体の側に立てば、組織活動を強化する手だてを充分にしていなかったこと。
- III 執行部の努力・係教官・担任・本委員会の指導に立ちふさがっている受験体制。

III 総括

1. 研究のまとめ

われわれが「ホーム・ルームと生徒会の関係強化によるホーム・ルーム指導の実践的研究」という主題に取り組んだのは、今日の教育のゆがみに対し、われわれなりの小さな抵抗の試みであり、教育基本法に格調高く示された教育の使命の自覚でもある。今日の教育の場では、若い精神が無力感の虜因となっていたり、相互に信頼感を欠いたまま、見過ごされることが多い。このような状況の中で、われわれが本校生徒の中に確認した欠陥に基づいて、本研究における指導目標とした次の諸点、すなわち、

- ① 生徒の主体性の強化
- ② 生徒の連帯性の強化
- ③ 集団の次元の高度化

④ 個の解放と規律

は、今日の普遍的、かつ重要な課題である。なぜならば、生徒の中にある欠陥は、教科偏重・受験体制より根元的には社会体制に起因するからであり、また指導目標そのものが、民主社会に望まれる全人的な教育目標の具体化以外の何ものでもないからである。

われわれは、現在の高校教育の場においては、これらの指導目標が、特別教育活動、特にH・Rおよび生徒会指導の中で、効果的かつ直接的に達成されうるとの考えに立ち、両者の関係強化によって予想される有効な指導法の確立を企図して来た。

われわれは、本校生徒の生徒会活動・H・R活動を検討し、両者の関係強化とH・Rにおける班活動を柱とする〈組織づくり〉や、各段階の集団における〈討議づくり〉〈核づくり〉が、生徒の自主性を伸長するよう配慮しながら進められることが必要であると考えた。それゆえ、高一のH・Rにおいては、〈H・Rづくり〉を目的とした校外指導を、生徒会については、生徒達の中にあつた会則改正への動きを、この指導の中心に位置づけ、さらにその他の学校行事への取り組み、日常の諸活動をも含む一貫した指導の展開を試みた。

次に、われわれが意図した指導に関連のある生徒達の変容を概観する。

1. H・Rでは、班活動が徹底し、R・H活動も活発になった。
2. 活動の重要性が理解され、それによって行事への取り組みが積極的になった。
3. R・Hと生徒会の結びつきを強化する意図を持った会則改正の動きに先行して、H・R委員会が作られ、ますます大きな機能を果たすようになった。

これらの変容から指導方法を評価することが必要であり、〈班活動〉をとりあげて検討する。

班活動を経験したことによって、生徒達の〈行動の積極性〉は高まった。班活動への期待から、いままでおちいっていた法力感からの脱出という〈目的意識〉が高まり、共通な仕事に取り組むことによって〈自己の目的意識を集団の目的に結びつける〉よとも出来るようになった。日常の学校生活では、〈集団の力〉を体験する機会が乏しかったが、校外指導に班活動で取り組むことによって、集団の力を理解しはじめた生徒が多い。

現地での討論を例にあげれば、その準備や実施の組織活動の積み重ねで、あるいは「思想」の触れ合いで、〈信頼と相互理解〉が深まったし、それによって〈自己を集団の中に位置づける〉ことも出来るようになった。

班活動は、特に上位集団での集約が必要である。班別討論の上位集約の要求は、〈上位集団への志向〉を深めた。はじめ〈他律〉的であった規律意識は、班活動の積み重ねによって、本来〈自律的〉でなければならぬとの理解が深まった。しかし、実際には自分達で〈規律〉をつくり、これを〈点検〉する段階にまでは到達していない。これは、われわれの班活に対する指導の不徹底に起因するものと反省したい。

これらの指導と指導を通して現われた生徒達の変容を多面的に評価した結果、指導目標への近接が認められ、指導内容や方法の方向が間違いないことは明らかと言えよう。

2. 問題点と反省

計画作成からこの中間報告まで余りにも短時日であり、研究の成果は乏しいにもかかわらず、問題点、反省事項は枚挙のいとまがないほどである。

第一にわれわれの研究へのとり組みの問題である。本委員会はもとより、学校としても経験の蓄積が不十分なこの領域にとり組みながら、われわれの研究活動は、貧弱な学習活動に支えられていたに過ぎない。その結果、綿密な筈の計画の齟齬を生じ、その調整に努める中で、計画は全般にわたって何回か変更されなければならなかった。方法的には、試行に過ぎない点が多く、その再検討を繰り返すこと自体当然であるが、当初の指導目標の具体化が不十分であった為、実施

の過程で、具体化に迫られたことは、この研究への取り組みの結果として反省しなければならない。また、そこから多くの問題が派生して来る。指導目標の具体化にともなって、具体的な指導内容との関連を明確にしておくことが必要であったが、その点も決して充分ではなかった。また、評価の観点も、一層具体化したのが、その段階では客観的な資料を集めて再検討を加えることは出来なかったことなどである。

この研究を進めて行く過程で生じた問題の多くは、研究と指導の分離の原則に起因するものと考えられる。例えばわれわれは校外指導の目標の一つとして、〈上位集団への志向〉をそこに展開されるすべての組織活動に求めた。担任側の立場に立てば、当面の〈上位集団〉は、H・Rであり、この段階において生徒会にまで狙いを高めることは飛躍として受け取られたのは、無理のないことであるが、その結果、〈組織活動〉の持つすぐれた教育効果を部分的にしか活かすことが出来なかった。また、生践の〈主体性〉を〈自主的〉な活動を通して伸長して行こうとするわれわれの意図はあたかも教師の指導性を軽視するかのような印象を、実際指導の担当者に与えたこともあった。生徒の育成が、教師の指導性の確立なしに行い得ないことを最も痛感するのは、特別教育活動の場でありそこに多大の関心を持つわれわれが生徒の〈自主性〉を強調する余り教師の指導性を軽視することはあり得ない。

指導の細部に焦点を合せれば、そこにも幾多の問題点が指摘できる。班活動や討論の個個について、指導の見通しが不充分であったし、また、その意義についても共通理解を欠く場合があったことを認めざるを得ない。このような、研究と指導の立場のちがいがから来る見解や見通しの相異を十全に解消しえなかったのも、一つにはわれわれの力量の不足に起因することであるが、より根元的には学校における指導側としての組織が、単なる機能の細分に終わり、指導目標が部分から全体にわたって明確にされ、有機的な関連の上に統一的に把握されていないことに起因するものと考えられる。

3. 展 望

われわれは、僅かな実践研究の中で数多く問題点を発見し、また反省もしなければならなかった。もともと、この中間報告は、予備実験的な性格をもつ初年度の研究のそれも前半の段階をまとめたものに過ぎない。困難な端緒に手をつけたばかりである。しかし、今までに到達した指導上の成果の一例として、〈班活動〉をとり上げてみても、それは、教科指導にも有効な手段として使いうような段階に達していると言える。教科偏重が受験体制に起因するもので、そこにさまざまな欠陥があるとすれば、〈班活動〉を有効に利用することで、その欠陥をいくらか緩和することが可能かも知れない。ともあれ僅少な成果でも、今日の教育の状況の中で持つ意義は、決して小さくはないであろう。われわれは、かかる意味で、この研究を継続し、発展させなければならないと考えているが、より肝要なことは、全校的な規模での実践であり、そこで予想される困難は、われわれが当面した問題よりはるかに実践的に意義深いものであろう。

あ　と　が　き

いわゆる有名校とか、一流校とか言われるのは、生徒の人間としての価値や教育内容をさしてそういうのではなく、ただ一流大学への合格者数や合格率を競う意味においてである。その点で、本校もまた一流でありうるわけであるが、それだけに受験制度のもたらすゆがみを集約的に具備していると言える。

これらのゆがみは、教育の場だけで解消することは出来ない。しかし、そのように考えることによって、いわゆる有名校の中に安住している姿勢が、われわれにも生徒にもないであろうか。

本校が、可能な限りにおいて受験制度のもたらすゆがみを正すことが出来れば、小さな経験ではあるが、貢献する所があるかも知れない。

学年	組	区分 小問 内容 番号 記号	I 日常的行動や考え方を左右しているもの									II 小市民的傾向について						III のあり方について						IV 運動の主体			V 主体は何か			VI HRの通し方				VII HRの通し方の理由				VIII HRの雰囲気				IX HR低調の原因						
			家友恋性成受将政平	族 人 愛 格 績 験 守 題 題	その時	友情など	信ずるの	ギブアンドテイク	ムード	ともかく	レクリエーション	事務的な	教師と生徒	相互理解	共通の目的	教師と生徒	学級	H R	H R	提案	意見	質	何も	性考	H R	教師	H R	他人の	欠点	あたり	心にも	事	教	日	観	行	時											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
I	1	◎ ○ × その他(Δ?)	1 25 2 2 3 8 11 1 2 3 6 5	4 3 6 8 1 9 12 27 27 29 17 24 19 18 1 1 1	15 2 13 8 28 12	31 9	1 34 5	11 16 10 2	14 16 2 7	11 10 4 2	3 16 11 21 7 23	1																																				
		◎ ○ × その他(Δ?)	8 4 13 1 3 5 1 1 3 11 4 7 9 12 8 1 4	9 5 3 15 2 11 16 28 31 34 22 32 20 21 1 1	17 5 7 11 26 8 1 1 1 1	3 24 12	2 25 6	5 17 16 1	10 11 7 1 11	2 9 15 9	11 3 9 18 15 9																																					
		◎ ○ × その他(Δ?)	2 8 18 2 5 7 11 3 4 4 5 2	3 2 6 4 13 11 26 31 33 20 28 12 18 1	12 4 10 20 22 8	20 18	5 28 4	4 23 2 1	13 6 4 1 13	3 10 17 2	12 4 14 15 10 5																																					
		◎ ○ × その他(Δ?)	4 2 2 16 2 9 2 4 10 1 7 11 5 6 1 2	4 7 4 10 3 18 5 34 29 33 26 33 15 31	21 2 10 14 26 5 1 1 1 1 1	21 19	4 31 4	3 24 8 3	15 17	8	4 17 9 9	9 11 26 8 10																																				
	小計	15 14 2 72 7 14 15 1 1 22 43 6 19 27 27 24 4 6	20 17 13 39 10 51 44 115 478 129 85 117 66 88	65 13 40 53 102 33	3 96 58	12 118 19	23 80 41 7	52 50 13 2 39	20 46 45 22	35 23 45 80 40 47																																						
II	1	◎ ○ × その他(Δ?)	4 1 15 1 6 5 2 5 8 2 3 3 10 6 2 3 1 1	7 5 6 12 6 17 7 29 30 30 23 27 18 26 1	23 8 5 6 22 8 1 1 1	1 25 11 1 1	3 25 5 1 1	12 8 13 3	14 9 4 9	4 6 14 7	10 8 14 12 17 13																																					
		◎ ○ × その他(Δ?)	2 11 3 10 9 3 4 2 3 5 9 9 5 2	8 3 4 14 2 9 11 26 30 26 18 30 24 20	20 6 8 7 17 9 1 1 1	23 11	2 24 8	6 12 7 7	10 7 4 13	3 5 16 5	7 6 9 8 6 3																																					
		◎ ○ × その他(Δ?)	3 2 10 1 11 2 1 2 8 1 4 3 8 5 1 1	5 3 7 9 3 10 9 25 29 25 23 22 29 20	16 5 9 12 13 7 1 1 1	20 13	2 28 3	2 18 8 5	6 8 5 13	3 21 4	10 10 17 6 7																																					
		◎ ○ × その他(Δ?)	3 2 13 2 7 6 2 3 4 7 1 9 8 1 1	6 3 6 14 4 13 12 31 35 31 22 33 23 27 1 1 1 2 2	21 7 12 5 16 13 1 1 1 1	30 8	3 31 2	6 16 11 5	21 6 4 7	5 2 18 5	5 4 11 23 6 7																																					
	小計	12 4 1 49 7 34 22 5 0 13 24 5 17 12 36 28 9 7	26 14 23 49 15 49 39 114 124 212 85 49 86 95	80 26 34 30 68 37	1 98 43	10 108 18	26 54 39 20	51 30 17 0 42	12 21 69 21	32 18 44 60 35 30																																						
総計	◎ ○ × その他	27 18 3 121 14 48 37 6 1 35 67 11 36 39 63 52 13 13 1 1	46 31 36 88 25 100 83 225 302 241 170 236 452 185 1 1 2 3 1 5 2	145 39 74 83 170 70 2 4 3 6 2 5	4 194 101 1	22 226 37	49 134 50 27	103 80 30 2 81	42 67 114 43	67 41 89 140 75 77 1																																						

学年	組	小問内容番号	X HR低調の原因					X 活潑化	XI 活潑化への道				XII 54の理由				XIII 生徒会の低調				XIV 活潑への障害				XV 生徒総会参加の態度				XVI 日常生活			XVII 生徒会のあり方												
			時間	教師	授業	受検	ク	思	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人					
		記号	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
I	1	◎ ○ × その他(△?)	2	4	7	1	1	37	3	8	6	22	2		2			27	5	4	2	27	11	1	1	6	2	32	2	4			28	4	5	9	29	6	7	3	11	4		
	2	◎ ○ × その他(△?)	7	3	18	7	3	34	5	7	2	2	2	2	2	1		36	1	2	2	25	6	3	1	5	1	30	1	6			27	6	5	7	23	9	8	3	6	7		
	3	◎ ○ × その他(△?)	3	1	19		3	35	2	7	7	20	1	1	1			33		4		27	8	1	1	2		31		7			27	4	6	6	19	6	12	6	11	2		
	4	◎ ○ × その他(△?)	2	2	13	1	6	36	5	7	4	24			3	3		37	1	3		26	13			2	1	34	1	1	6			29	5	7	9	30	14	19	7	22	5	
	小計			14	10	57	9	13	142	15	29	19	88	5	3	0	5	5	133	7	13	4	105	38	2	5	3	14	3	77	4	1	23	0	2	111	19	23	31	101	35	46	19	50
II	1	◎ ○ × その他(△?)	6	3	16	8	8	33	4	7	4	18	1		4			24	5	6		21	7	4		7	2	26	2	2	6	2	1	22	10	5	10	17	8	8	5	9	5	
	2	◎ ○ × その他(△?)	7	2	24	8	7	23	10	7	2	13	1	1	5	5		30	20	1	1	29	3	2	1	2	2	2	26	2	3	3			21	4	6	5	11	8	11	5	7	5
	3	◎ ○ × その他(△?)	6	6	16	12	7	25	7	5	4	14			2	2		21	3	2	1	26	4	7		1	2	1	27	2	7	2			19	7	8	1	11	8	4	5	12	5
	4	◎ ○ × その他(△?)	4	1	18	9	6	29	9	9	7	12	1		2	6		32	2	7	1	32	4	1				4	27		8			24	7	9	4	18	7	3	2	12	4	
	小計			23	7	74	37	28	110	30	28	17	57	3	1	0	9	17	107	30	18	2	108	18	14	1	3	11	9	99	4	7	24	4	1	86	25	28	20	57	31	26	17	40
総計		◎ ○ × その他	37	17	731	76	41	252	45	57	36	145	8	4	0	14	22	240	37	31	6	213	56	16	6	6	25	12	226	8	8	47	4	3	197	44	51	51	158	66	72	36	90	37